

第59回群馬県医学検査学会 生理研究班超音波セミナー

症例から学ぶ
こんな技術・知識が役立った！！検査から報告書作成まで

腹部領域

済生会前橋病院
荻原鉄平

技術・知識

技術面

- プロローブはゆっくり動かす
- 体位変換をおこなう
- 他方向から観察（見落とししやすい場所は特に）
- 場所や状況に応じて、色々なプロローブを使用

知識面

- 解剖の知識
- 疾患の知識
- CTやMRIの知識

心がけている事

・検査の目的を明確にし、考えながら検査をする

同じスクリーニング検査でも(検診、慢性肝炎、腹痛等)目的が異なる。いくら描出が上手でも個々のリスクファクターや疾患の可能性を考慮せず、常に判で押したような検査をおこなってはいけない

・なるべく短時間で質の高い検査を

検査はエコーだけでは無い、1時間近くも腹痛の原因を探って先生に怒られた事もある。エコーにも限界があるので、他の検査(CT等)の時間に影響を出してはいけない

・疑問が残る症例については経過を追う

他の画像検査(CT・MRI等)をチェックし、自分が施行した検査の妥当性を評価する。最終診断、所見の解釈、検査もれ等

・医師とコミュニケーションを積極的にとる

予期せぬ所見、判断困難な所見を見つけた場合は、医師と直接話をする
医師と話す事で、自分の知識の向上にもつながり、モチベーションも上がる

〔症例〕 53歳 男性

〔主訴〕 発熱、右季肋部痛

〔既往歴〕 2010年 総胆管結石症（EST後排石）

2012年 胆石、腹腔鏡下胆嚢摘出術

〔現病歴〕

2013年5月初旬より39度台の発熱・嘔吐があり右季肋部痛があった。風邪と考え市販薬を服用したが解熱せず。2日後に当番医受診したが休日のため検査等できず、解熱剤と抗生剤処方され帰宅。症状治まらないため、当院内科外来受診された。

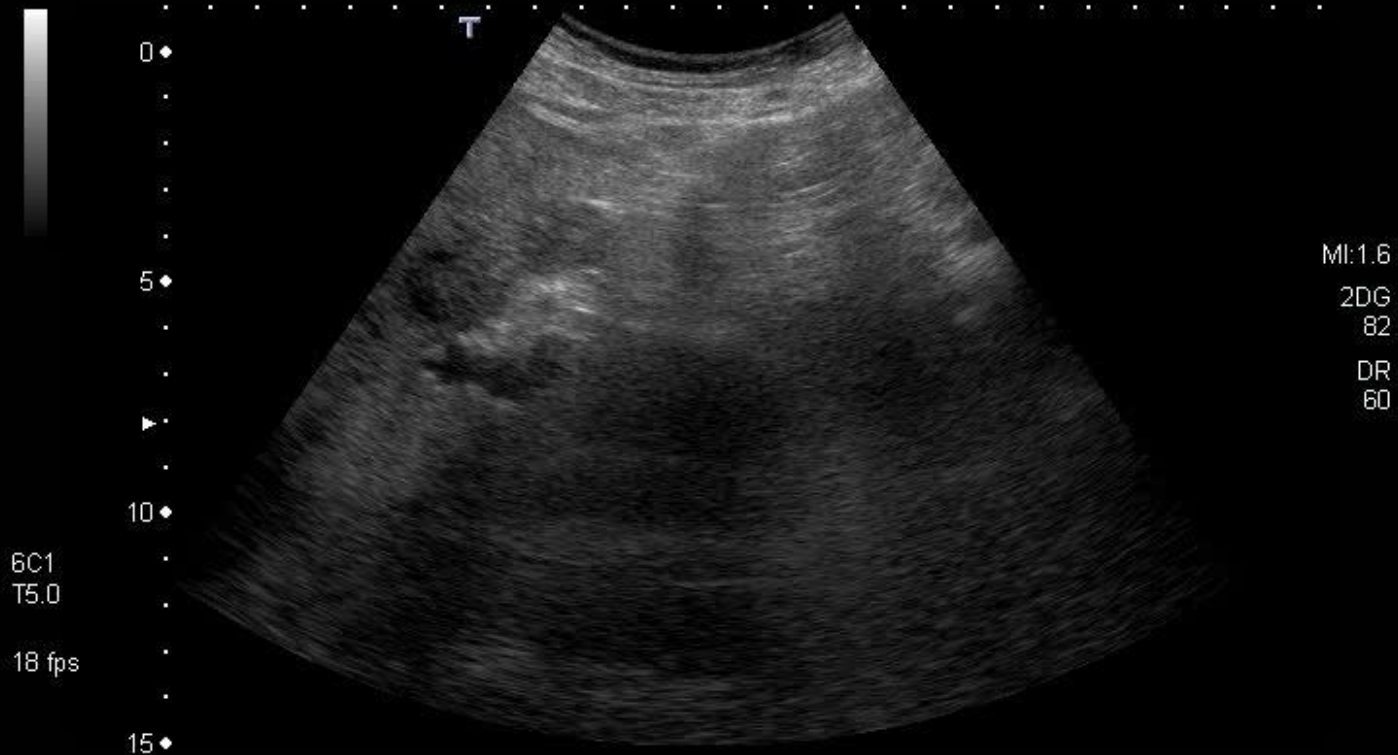
超音波検査画像

TOSHIBA

SAISEIKAI MAEBASHI HP. - OPE - Abdomen1

2013/05/13

8:53:34 AM



HDD:49% Free

心窩部走査

超音波検査画像

TOSHIBA

SAISEIKAI MAEBASHI HP. - OPE - Abdomen1

2013/05/13

8:55:54 AM



HDD:49% Free

右肋弓下走査

超音波検査画像

TOSHIBA

SAISEIKAI MAEBASHI HP. - OPE - Abdomen1

2013/05/13

8:50:36 AM



HDD:50% Free

心窩部～右肋弓下走査(縦走査)

超音波検査画像

TOSHIBA

SAISEIKAI MAEBASHI HP. - OPE - Abdomen1

2013/05/13

8:51:42 AM



HDD:50% Free

右肋弓下走査(総胆管長軸)

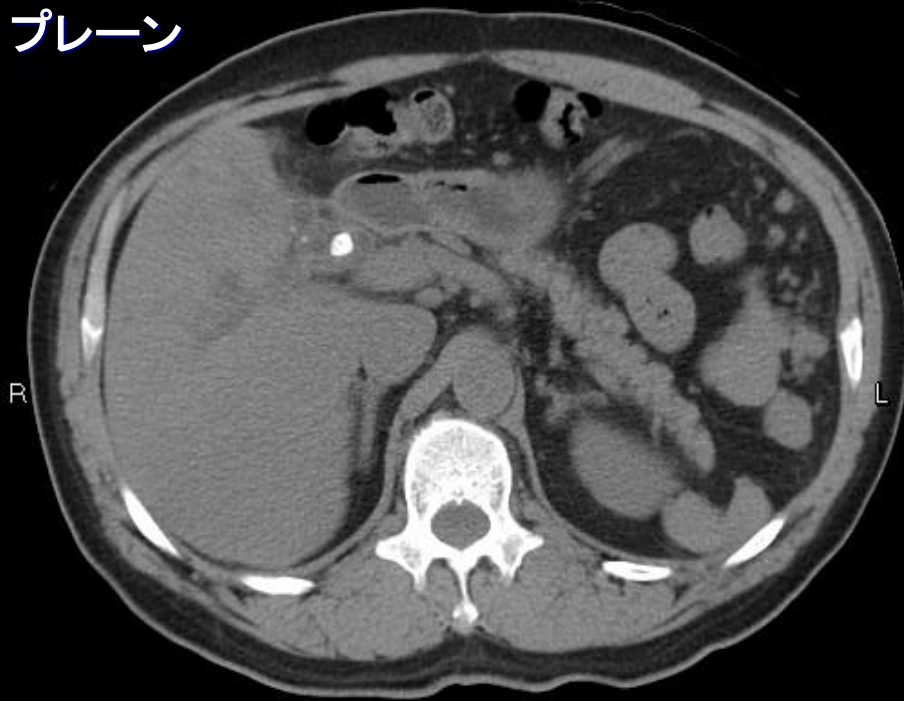
超音波所見まとめ

- 肝：実質エコーレベルは上昇し、右葉には地図状の低エコー領域が認められる（まだら脂肪肝）。また、低脂肪領域の内部には、さらに低エコーで内部にのう胞変性に近い変化を伴う病変が散在していた。
- 総胆管：径9mmで胆摘後を考慮すると、明らかな拡張を認めないが、総胆管中央部に音響陰影を伴う結石と思われるエコー像を認めた。肝内胆管は右葉側で軽度の拡張を認めるが左葉側の拡張は目立たない。

上記の事から総胆管結石症そして、経胆道感染による多発肝膿瘍が合併しているのでは？ただし、まだら脂肪肝で肝内エコーが不均一のため、肝膿瘍の数、大きさ、範囲はエコーでは評価が難しい・・・と報告。

CT画像

プレーン



動脈相



- 脂肪肝を認める
- 肝右葉は動脈相にて地図状の濃染（炎症による動脈血流の亢進）が認められ、肝内胆管炎が疑われる
- 肝右葉の胆管辺縁には低吸収病変が多発して認められる。多発性の肝膿瘍が疑われる
- **胆嚢管に遺残結石**が認められる。右肝管は遺残結石により軽度圧排され胆道通過障害を生じていると思われる（Mirizzi症候群）

ERCP画像



- ・総胆管・肝内胆管に結石を認めない。
- ・CT指摘の胆嚢管遺残結石による胆道の圧排は軽度ではあるが認められた。
- ・右肝内胆管は狭小化を認める。慢性炎症が原因と考えられた。

考察

- 胆嚢炎で胆嚢摘出したが、癒着が強く胆嚢管と遺残結石が残存していた。
- 胆嚢管遺残結石により右肝管が軽度圧排され、軽度の胆道通過障害(Mirizzi症候群)による慢性的な胆管炎を生じていたと考えられた
- 慢性胆管炎が憎悪し多発性肝膿瘍を生じたと考えられた

エコーで、胆汁うっ滞による多発肝膿瘍(疑)という判断は合っていたが、胆汁うっ滞の原因は、胆嚢管遺残結石であり、総胆管結石と見誤った。総胆管を短軸・長軸で確認はしていたが、こんなところの結石は総胆管内であろうという思い込みが原因と思われる。

まだら脂肪肝



肝内胆管の慢性的な炎症により肝内で部分的な動脈血流の亢進が長期間続いていたと考えられた。

本来均一な脂肪肝であったが動脈血流の部分的な亢進が続いた事により、その部位の脂肪沈着が減少し、まだら脂肪肝になったのではないかと考えられた。